

# 保育における音楽 ——保育者の意識——

## 指導の一試案

○真田 治美  
(上田市金瓶児童館)

高木 和子  
(山形大学)

### はじめに

日本保育学会第38回大会に於て、保育に於ける音楽の指導くその一試案として、三才未満児保育を通し音楽によるCommunicationの育ちの重要性について考察を行なった。今大会では、山形県公私立保育所に働く保育者が、保育の中で音楽をどのように位置付けし実践しているか、ということ調査し、分析してみようとするものである。

### 方法

山形県内公私立保育所に勤務する三才未満児担当保育者(以下未満児という)及び三才以上児担当保育者(以下以上児という)にアンケート用紙を郵送、回答を得た。回答者は未満児120名、以上児189名である。

### 結果

#### Ⅰ. 歌の指導

「みんなご一緒に歌を歌いますか」の設問では、「毎日歌っている」が未満児79.2%、以上児73.6%であり、「時々歌う」が未満児25%、以上児26.4%で、ほとんどの園が積極的に歌の指導をとり入れていることがわかる。表1の調査では「あいさつ」としての歌の活用が主となっている。また、活動の合間、静かにさせるため、注意をひくための活用も多く、あいさつ、合図、子どもの意志統一、集団としてまとめるため、の、一つの手段として活用されることが多いのではないかと推察される。尚、未満児、以上児の差異は認められ

| 項目                  | 未満児% | 以上児% |
|---------------------|------|------|
| 表1. どのような時に歌を歌いますか。 |      |      |
| 決まった時間              | 40.8 | 36.5 |
| 活動の合間               | 40.8 | 36.4 |
| 静かにさせるため            | 29.2 | 36.0 |
| 活動の導入として            | 63.3 | 56.6 |
| 注意をひく               | 24.2 | 31.7 |
| 朝のあいさつ              | 76.8 | 80.7 |
| 午前のあいさつ             | 66.8 | 56.6 |
| 降園のあいさつ             | 71.7 | 81.0 |
| 歌の時間                | 13.3 | 26.4 |
| 午睡の時                | 12.5 | 7.3  |
| その他                 | 12.5 | 16.3 |

なかつた。表2の調査での上位項目では、未満児、以上児の差異は見られないが、以上児に於て、歌唱技術指導的な指導が強くみられている。表3の調査では未満児、以上児共、「楽しんで歌う」がもっとも多く、ついで「みんなご一緒に楽しさ」「のびのびと」の順になっており、音楽

| 項目                  | 未満児% | 以上児% |
|---------------------|------|------|
| 表2. 歌の指導と特に配慮していること |      |      |
| 歌詞を正確に              | 44.2 | 60.8 |
| リズムを正確に             | 40.0 | 52.4 |
| 元気がよく               | 62.5 | 60.8 |
| 大きい声で               | 18.3 | 29.1 |
| きれいな声で              | 49.2 | 66.6 |
| 歌詞の理解               | 6.7  | 19.0 |
| 歌を口ずかせる             | 24.2 | 11.6 |
| 4x4x4x歌             | 3.3  | 2.1  |
| みんなご一緒に             | 80.8 | 87.8 |
| 伴奏に合わせて             | 23.3 | 38.6 |
| 保育者と子どもの<br>いっしょに歌う | 64.2 | 60.3 |
| 楽しんで歌う              | 54.2 | 45.0 |
| のびのびと               | 67.5 | 72.0 |
| 子どもと子どもの<br>いっしょに歌う | 33.3 | 38.6 |
| その他                 | 4.2  | 2.1  |

| 項目                   | 未満児% | 以上児% |
|----------------------|------|------|
| 表3. 歌の指導と特に大切に育てたいこと |      |      |
| 楽しんで歌う               | 35.8 | 30.7 |
| きれいな声で               | 1.7  | 5.3  |
| みんなご一緒に              | 20.0 | 27.0 |
| 歌詞を正確に               | 1.7  | 3.2  |
| のびのびと                | 10.8 | 10.1 |
| 保育者と子どもの<br>いっしょに歌う  | 5.8  | 2.6  |
| 元気に歌う                | 5.0  | 2.6  |
| 楽しいふんいき              | 4.2  | 0    |
| たくさん歌を教える            | 4.2  | 1.1  |
| 自然に歌がでる              | 4.2  | 0    |
| 歌がきこえる               | 4.2  | 2.6  |
| リズムに                 | 3.3  | 4.8  |
| 音こで歌う                | 2.5  | 2.6  |
| 生活の一部としての歌           | 0.8  | 3.7  |
| みんな元気な歌う             | 0    | 5.3  |
| 表4. 表3の分類            |      |      |
| 技術的                  | 26.8 | 52.0 |
| 楽しむ                  | 48.3 | 43.6 |
| Communication        | 24.8 | 6.7  |

り、未満児では「楽しむこと」が大きな配慮となつてい

によるCommunicationの育ちを大切にしていきたいと考えられていることとわかるが、表4より、未満児では「楽しむこと」が大切にされているのに対し、以上児では、半数が技術的なねらいを目標にしているようである。

#### Ⅱ. 楽器の指導

「楽器の指導はしていますか」の設問では「指導している」が未満児49.2%、以上児79.8%であり、その方法は、「一斉活動として」が未満児88.3%、以上児88.6%、「遊びの中でやりた

い子に」が未満児22%以上児16.4%である。これを見ると、楽器指導に於ては、保育者中心のより指導性の強い指導がなされていることが多くはないか、ということも推察される。表5の調査で、未満児は「いろいろな音を楽しむ」「音遊び」「正しい持ち方鳴らし方」の順になっており以上児では「正しい持ち方鳴らし方」「いろいろな音を楽しむ」「音遊び」の順になっており、未満児では「楽しむこと」が大きな配慮となつてい

共、「楽しむこと」を大切にしているが、Communicationの育ちについては、あまり配慮されていない。

### Ⅲ 身体表現の指導

「身体表現の指導はしていますか」の設問に対して未満児88%、以上児96.3%が「している」と答え、その方法は「一斉活動として」が未満児96%、以上児72.9%

| 項目                    | 回 | 未満児% | 以上児% | 項目                     | 回 | 未満児% | 以上児% |      |      |
|-----------------------|---|------|------|------------------------|---|------|------|------|------|
| 表5 楽器の指導と特に配慮していること   |   |      |      | 表9 身体表現の指導と特に大切にしていること |   |      |      |      |      |
| 正しい持ち方教わらう            |   | 48.3 | 77.8 | 楽しんで身体を動かす             |   | 41.7 | 40.2 |      |      |
| 音遊び                   |   | 64.2 | 46.6 | のびのびと                  |   | 25.8 | 18.5 |      |      |
| リズムカレであるか             |   | 12.5 | 35.4 | その子なりの表現               |   | 11.7 | 11.1 |      |      |
| 決められたところを正確に          |   | 10.8 | 27.6 | 自由に表現する                |   | 10.8 | 3.7  |      |      |
| いろいろな音を楽しむ            |   | 78.3 | 75.1 | リズムカレに                 |   | 7.5  | 9.0  |      |      |
| 子どもの創造性               |   | 15.0 | 18.0 | 創造性                    |   | 5.0  | 5.8  |      |      |
| のびのびと                 |   | 35.8 | 38.1 | 思ったことを素直に表現            |   | 5.0  | 3.7  |      |      |
| その他                   |   | 3.3  | 2.6  | 表10 表9の分類              |   |      |      |      |      |
| 表6 楽器の指導と特に大切にしていること  |   |      |      | 技術的                    |   |      |      | 37.1 | 42.5 |
| 楽しむ                   |   | 35.0 | 82.5 | 楽しむ                    |   | 58.2 | 53.1 |      |      |
| 喜んで遊ぶ                 |   | 9.2  | 0    | Communication          |   | 4.7  | 4.4  |      |      |
| 正しい持ち方                |   | 6.7  | 9.0  | 表11 音楽と保育の中での扱いに用いているか |   |      |      |      |      |
| 正しい持ち方                |   | 5.8  | 11.1 | 習慣(伝統)で                |   | 11.7 | 20.6 |      |      |
| 興味をもつ                 |   | 5.8  | 3.2  | あいさつのため                |   | 58.3 | 53.4 |      |      |
| リズム感                  |   | 4.2  | 0    | 合図として                  |   | 18.3 | 23.3 |      |      |
| 音のおもしろさ               |   | 4.2  | 0    | けじめとして                 |   | 10.8 | 13.2 |      |      |
| みんなに合わせて遊ぶ            |   | 2.5  | 6.3  | 子どもを静かにさせる             |   | 20.0 | 24.3 |      |      |
| 楽器に親しむ                |   | 2.5  | 7.9  | 活動の前に集中させる             |   | 44.2 | 42.3 |      |      |
| リズムカレに演奏する            |   | 0.8  | 18.0 | ふんいき作り                 |   | 67.5 | 61.9 |      |      |
| 創造性                   |   | 0.8  | 2.6  | 心のふれあいとして              |   | 61.7 | 57.7 |      |      |
| パートを正確に               |   | 0    | 3.7  | 音楽好きを育てる               |   | 33.3 | 33.9 |      |      |
| 楽しんで扱う                |   | 0    | 3.7  | 情操教育                   |   | 42.3 | 43.4 |      |      |
| 音遊び                   |   | 0    | 3.2  | 豊かな感性を育てる              |   | 45.8 | 45.0 |      |      |
| 表7 表6の分類              |   |      |      | 表12 表11の分類             |   |      |      |      |      |
| 技術的                   |   | 28.5 | 42.5 | あいさつ・合図                |   | 41.0 | 42.1 |      |      |
| 楽しむ                   |   | 68.6 | 53.1 | 楽しむ                    |   | 44.5 | 44.2 |      |      |
| Communication         |   | 2.9  | 4.4  | Communication          |   | 14.6 | 13.8 |      |      |
| 表8 身体表現の指導と特に配慮していること |   |      |      | 表13 ピアノ(オルガン)の演奏は得意ですか |   |      |      |      |      |
| 決められたところを正確に          |   | 6.7  | 12.2 | 得意                     |   | 2.5  | 4.2  |      |      |
| わかりやすさ                |   | 6.7  | 8.5  | 不得意                    |   | 50.0 | 54.5 |      |      |
| その子なりの工夫              |   | 46.7 | 58.5 | 表14 歌うことは得意ですか         |   |      |      |      |      |
| 楽しんで身体を動かす            |   | 95.8 | 96.3 | 得意                     |   | 14.2 | 11.1 |      |      |
| 音楽に合わせてリズムカレ          |   | 49.2 | 73.0 | 不得意                    |   | 23.3 | 27.1 |      |      |
| のびのびと                 |   | 69.2 | 68.0 | 表15 身体表現は得意ですか         |   |      |      |      |      |
| ふざけたり遊びめ              |   | 15.8 | 29.1 | 得意                     |   | 9.2  | 9.5  |      |      |
| その他                   |   | 1.7  | 0.5  | 不得意                    |   | 27.5 | 26.5 |      |      |

となっている。表8より、未満児では「楽しんで身体を動かす」「のびのびと」「音楽に合わせてリズムカレに」の順になっており、以上児では「楽しんで身体を動かす」「音楽に合わせてリズムカレに」「のびのびと」の順になっている。表9、表10より、「楽しむこと」が大切にされているものの、Communicationの育ちはあまり重視されていないことがわかる。

### Ⅳ 総合的に保育者の意識

表11より、未満児、以上児共「ふんいき作り」「心のふれあい」としての順になっており、保育者の意識の中では、楽しさやCommunicationの育ちをねらいとしていることがわかる。表12によると、Communicationの育ちとしての活用もみられるものの「あいさつ・合図」が未満児、以上児共、40%を越えている。表13、表14、表15によれば、歌・身体表現と比較して、保育者のピアノに対する不得意意識が非常に強く表われている。「保育上の疑問や悩みについて」の設問では、未満児では「ピアノが下手」「研修の場がほしい」「音楽が苦手」の順になっており、技術的な悩みが71.4%となっている。以上児では「ピアノが下手」「選曲が難しい」「楽しいと思える指導法」の順になっており、技術的な悩みが66.9%で、この中の40.8%が「苦手である」という悩みであった。

### まとめ

未満児、以上児共、ねらいや配慮の中で「楽しませたい」「音楽活動を通してCommunicationを育てたい」と考えているが、実践の場に於て、技術指導の傾向や、技術的な悩みが多く、音楽をあいさつや合図・次後の活動の導入として利用していることが多いと言えるであろう。また、「音楽は苦手」という、不得意意識の保育者も多く、この不得意意識が音楽の専門家による一般的指導技術に流れたり、保育の中での音楽をどのように位置付けするか、ということよりも、音楽のための音楽指導、芸術の伝達を主とした上から下への音楽指導の実践になってしまいかちなのではなかろうか。表3、表6、表9で示された「音楽を楽しませたい」を実践していくための1つの方法として、保育に於ける音楽と、芸術としての音楽との質的な違いを明確にし、保育の場ごとのように位置付けし音楽によるCommunicationの育ちを考えていかなければならないかということが、保育に於ける音楽の今後の課題といえよう。